

## 教材を提示する工夫、動作化・役割演技など表現活動の工夫に力点を置いた

### 「考え、議論する道徳科の授業」

野元 崇之（小林市立三松小学校）

#### 授業のポイント

本実践においては、児童が読み物教材に描かれる問題を自分事として捉え、自分の考えを自由に表現したり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりする授業を目指して行いました。

具体的な指導においては、切り返しの発問等を工夫したり、動作化や役割演技を取り入れたりすることで、ねらいとする価値について自分事として考えることができるようにしました。

#### 授業の実際

(1) 主題名【教材名(出典)】 みんなとなかよく【二わのことり（日本文教出版）】

(2) ねらい

うぐいすの音楽会の練習に行ったものの、一人で待つやまがらが心配で音楽会の練習を楽しめないみそさざいの気持ちを考えることをとおして、友達のことを思って、仲よくすることのよさに気づき、友達を大切にしようとする心情を育てる。

(3) 本時の展開

**導入** 自分の中の理想の友達像を確認し、主題に対する興味や関心を高める。

ア 「あなたはどんな友達がいたらうれしいですか。」と問うことで、自分の中の理想の友達像を表出させるようにしました。

イ 本時のめあて「友達について考えよう」を示すことで、本時は友達について考えることを学級全体で確認し、本時の学習の見通しをもつことができるようにしました。

◆ 指導のポイント

児童一人一人に自分の中の理想の友達像を思い浮かべさせることで、主題に対する興味や関心を高められるように配慮しました。

**展開** 読み物教材に描かれた事例を基に、友達に対する価値観を深める。

ア 読み物教材の前半部分を提示し、「この後、みそさざいはどうすると思いますか。」と問うことで、児童が自分の友達に対する価値観を基にしながら、みそさざいの気持ちに寄り添えるようにしました。その際、「うぐいすの家に行く」「迷う」「やまがらの家に行く」の3つの考えのどれかに自分のネームプレートを貼らせることで、自分の考えを明確にしたり、友達の考えと比較して意見を聞いたりしながら価値観を深められるようにしました。

イ うぐいすのもとを抜け出して、やまがらのところへ向かったみそさざいの様子を役割演技させることで、みそさざいがどんな思いでやまがらのもとへ向かったのか、そしてそれを迎えるやまがらはどんな気持ちになったのかについて気付くことができるようにしました。

### ◆ 指導のポイント

教材を分割して提示することで、読み物教材の山場に焦点を当てて考えやすくしました。また、思考ツールで考えを可視化することにより、自分の考えを明確にしたり、自分と違った考えをもつ他者の意見と自分の考えを比較したりできるようにしました。また、自分の考えを選べない友達が、二つの選択肢の中から、なぜ迷って決められないのかを考えさせることで、みそさざいの気持ちを多面的・多角的に考えられるようにしました。

役割演技では、話の流れや登場人物の大まかな行動を押さえるため、まずは教師がやまがら役になり、児童の見本となるようにしました。また、あえて練習をさせたり事前に台詞を考えたりさせず、即興的な演技を行うという流れとすることで、児童がみそさざいややまがらの立場に自分を重ね、共感的に考えられるようにしました。

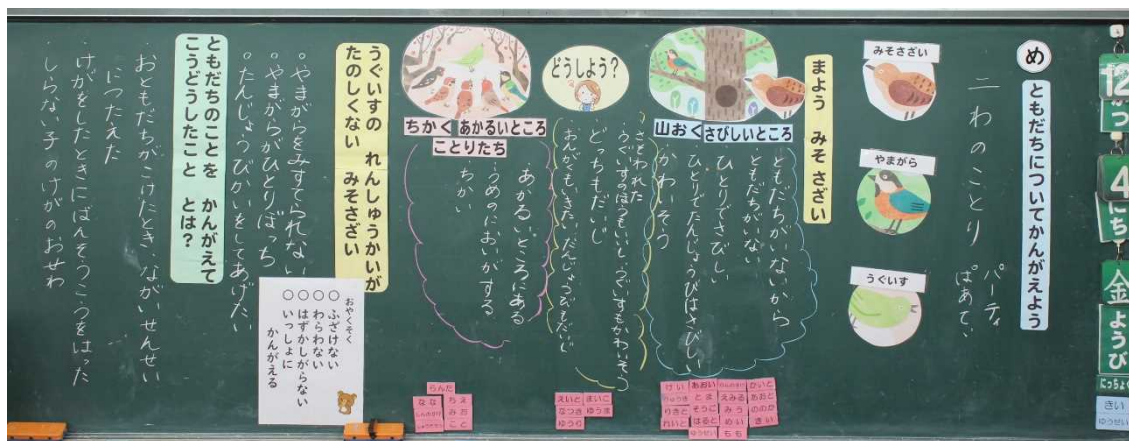
### 終末 自分の生活を振り返り、改めて友達のよさについて考える。

ア 日常生活において、自分が友達にしてあげたことや自分が友達からしてもらったことがなかったかを振り返らせることで、改めて友達のよさに気づき、友達を大切にしようとする心情が高まるようにしました。

### ◆ 指導のポイント

児童が、友達を思いやった経験や友達から思いやってもらった経験について想起したことを共有化することにより、友達のよさに改めて気付けるように配慮しました。

### (4) 板書



### 評価のポイント

1 単位時間においては、ネームカードの活用や、役割演技等の表現活動をとおして、児童が考え、議論することで、友達の大切さに気付くことができたかを評価しました。児童の発言の内容や友達の発言から考えを深めている様子等、実際に見られた児童の事実を評価の材料(根拠)としました。

### 授業を振り返って

児童一人一人が、自分の中の友達像をしっかりもって授業に臨んだため、自分の経験をもとに、みそさざいの葛藤を自分事としてしっかり考えることができました。友達への思いやりだけでなく、「親切」の価値へと広げて考えてしまう児童もいたため、本時のねらいからぶれないよう発問の工夫が更に必要であったと感じています。



本授業のダイジェスト  
動画はこちら